

第4学年1組 学級活動指導案

平成20年12月3日(水)第3校時

授業者T1 教諭

T2 図書館支援員

1 題材 みんなで本の紹介をしようⅡ

2 題材設定の理由

読書活動は各教科の「読解力」を基底から支えている大きな地盤とも言われ、基礎学力の形成にあたってきわめて大きな力となっている。豊かな本の世界と確かな実生活の体験との両方が絡み合い支え合って、学力が着実に育っていくとも言われている。このことから小学校の時期に、学年に合わせた読書指導を行うことはたいへん意義深いことだと考える。

児童は1年生の時から図書室の利用指導を含め、学年に合わせた読書に関する学習を継続的に行ってきた。読書活動を推進していくためには、読書をする「場」と「時間」を保障することが最も大切である。本学年では、自分で本を選んで読書をするといった習慣はおおむね身に付いていると考えられる。そこで、お互いが本の紹介をすることを通して読書の輪が広がり、さらに意欲的に本を読んでいこうとする態度を身につけさせていきたいと考え、この題材を設定した。

このようにして、小学校6年間の間に本の世界の豊かさとその広さを十分に体験させることで、中学校での自分自身の生き方を考えていくためのより幅広い読書活動へつなげていきたいと考える。

3 児童について

本校では、年間を通して週2回の朝読書が設定されており、児童は自分の好きな本を継続的に読む習慣が身に付いている。本学級の児童も全体的には読書を好む傾向にあり、家から持ってきた本も含め、いつも机の中に1冊は本が入っている状況である。

しかし学級の中には、読書量が豊富でテーマを持って読書をするなど、意欲的に読書に取り組んでいる児童もいれば、読書にあまり興味を持っていない児童もいる。また必ずしも学年にふさわしい本を読んでいる児童ばかりではなく、読書をしていても自分にとって興味関心のある本ばかりを読んでいる児童も多い。

そこで、今年度から全校で取り組んでいる「学年おススメの本20冊」をみんなで読もう、を合い言葉に、学級全体でより良い読書環境をつくっていきけるよう取り組んでいるところである。またその他にも、読書タイムで読んだ本などについては各自の「読書の記録」に一言感想を書いて記録を残し、10冊記入することができるとシールを貼って励ましている。

読書を苦手とする児童については、読書タイムのときにどんな本を選んでよいかかわからなかったり、読み出してもすぐに飽きて次の本を読み出すといった様子が見られる。学級では、時間に余裕があるときにはできるだけいろいろな本の読み聞かせを行うようにしてきた。その成果もあって、今まで進んで読書をしなかった児童が、読み聞かせをした本を好んで手に取って読むようになってきている。

4 指導について

研究主題を受けて、本学級では「伝え合う力を高めるための指導の工夫」をテーマに取り組んでいる。今回の読書指導においては、読書を好んでいる児童にはより質の高い読書へ、また読書を苦手とする児童には、興味関心を持って意欲的に取り組める読書へと指導していきたいと考えている。本時の学習でも、一人一人が持っている本に対する知識などを伝え合い、生かしながら指導を続けていきたい。

前回の「みんなで本の紹介をしよう」の学習では、担任による読み聞かせ、児童と図書館支援員によるブックトーク(音読編)の両方を取り入れた。音読は本学級の児童が得意としていて、話の内容に合わせて心情を込めて読むことができ、全員が音読を通してそれぞれの本について興味関心を持つことができた。児童から、自分達で選んだ本を音読で紹介したい、という声もあり今回の学習もブックトーク(音読編)を取り入れることにした。

また各班でテーマを決めたり本を選んだりする場合には、話し合いを通して、本に対するお互いの知識を十分に生かしていけるようにさせたい。各班が紹介する本は10冊とし、紹介された本を一斉に読む場合にも冊数が足りるようにしたい。

さらに各班が音読で紹介する本は1冊だけのため、残りの本については、「紹介プレート」でそれぞれの児童の声がみんなに伝わるよう工夫させていきたい。そしてお互いが紹介した本を読み合ったり感想を伝え合ったりすることで、楽しく読書に取り組めるようにしていきたいと考える。このようにして、「本を選ぶ楽しさ」「本を読む楽しさ」「本をみんなにすすめる喜び」を十分に味わわせたい。

本時は、前回と同じく担任と図書館支援員とのTT形式で授業を行うが、担任だけでなく、読書に関する専門的な知識を持っている図書館支援員からの指導を受けることで、より幅広い学習にしていきたい。

5 本時の目標

- ・各班で考えた「テーマ」の本のブックトーク（音読編）をグループの友達と協力して行うことができる。
- ・他の班の発表を聞いて、進んでいろいろな本を読もうとする意欲を持つことができる。

6 準備物

- ・テーマに基づいて各班で選んだ本
- ・音読用の原稿（児童用）
- ・本の紹介プレート
- ・板書用資料

7 本時の学習過程

学 習 活 動	T 1 支援(・)と評価(☆)	T 2 支援(・)と評価(☆)
○各班ごとに紹介する本の「テーマ」の確認をする。	・各班から、それぞれのテーマについてどんな本が紹介されるか興味関心が持てるようにする。	
自分たちで考えた「テーマ」で本の紹介をしよう		
○それぞれの班ごとに、本の紹介をする。 ・本の名前を紹介する。 ・紹介する1冊の本の一部を抜粋した文章を音読する。 ・自分達がつけた「紹介プレート」について簡単に説明する。	・1つの班が紹介する本は10冊とする。 ・班ごとに工夫して音読ができるよう支援をする。 ☆文章全体をとらえながら自分の担当部分を工夫して表現することができたか。 ・残りの本は、「紹介プレート」を使って見やすく本の紹介ができるようにさせておく。 ☆班ごとに工夫して、本の紹介をすることができたか。	・音読に合わせて本を見せる。
○それぞれの班を自由に回って、紹介された本を手にとって見て回る。	・各班が作った「紹介プレート」を参考にするよう声をかける。 ・次時にゆっくり本を読む時間を設定することにする。	・本を選ぶのに迷っている児童がいたら、そのつど助言をする。 ☆紹介された本を進んで見て回ることができたか。
○紹介された本を見て回った感想や、その中から読んでみたいと思った本について発表する。		・進んで発表した児童をほめたり、必要に応じて本についての説明のつけ足しをしたりすることで読書の輪が広がっていくようにする。 ☆紹介された本を進んで読んでいこうとする意欲を持つことができたか。
○「みんなで本の紹介をしよう」の学習のまとめをする。	・ブックトーク（音読編）などを通してたくさん本と出会ったことをもとに、今後も楽しく読書をしていこうとする意欲づけをする。	・テーマを決めることで「本を選ぶ楽しさ」「本を読む楽しさ」「本をみんなにすすめる喜び」を味わうことができることに気づかせる。

8 授業の観点

進んで本を読んでいこうとする意欲を持たせるために、班ごとのブックトーク（音読編）や「紹介プレート」を使った手立ては有効であったか。